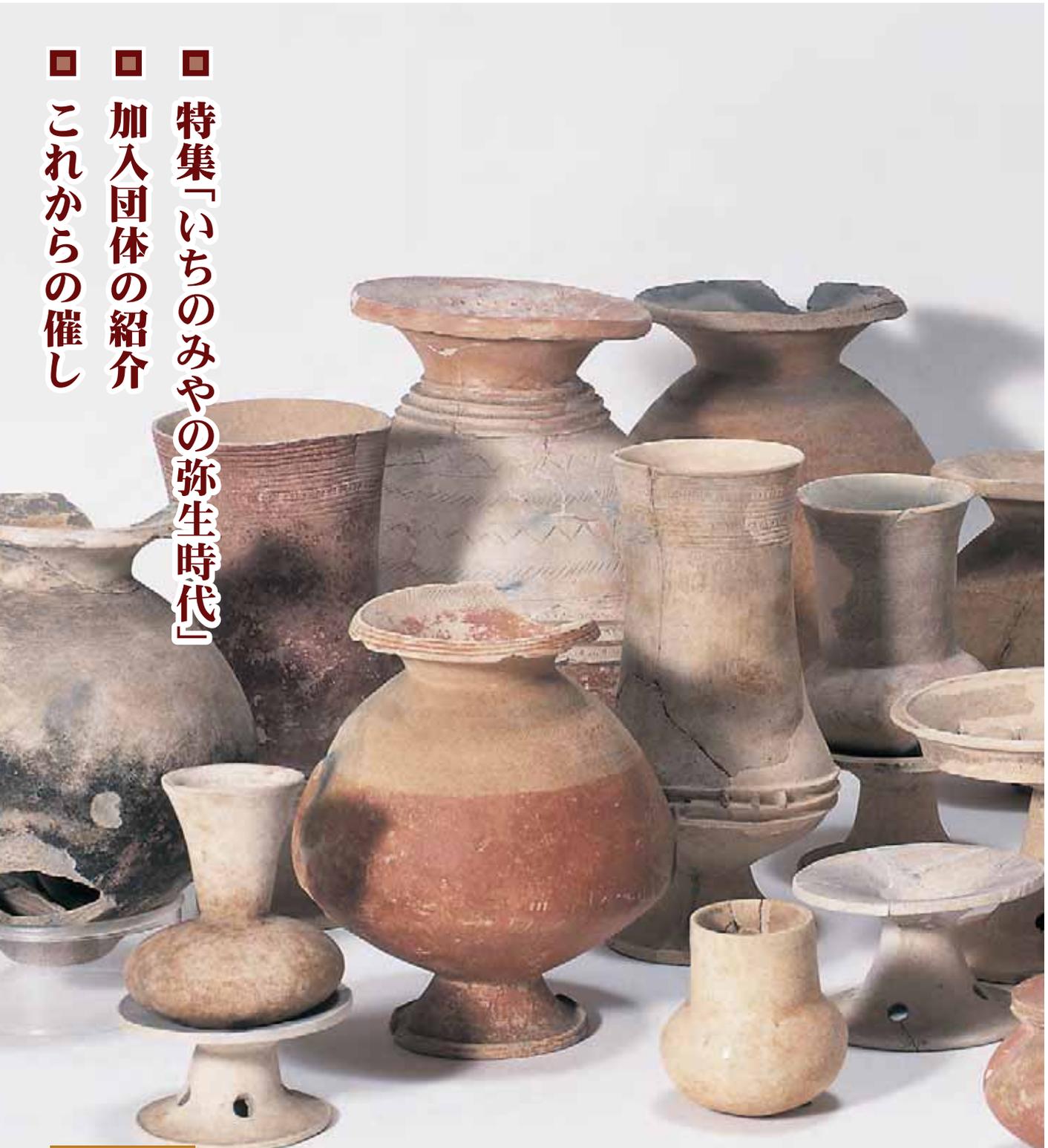


いちのみやの芸術文化

- 特集「いちのみやの弥生時代」
- 加入団体の紹介
- これからの催し



2014.3

第28号

山中遺跡出土パレススタイル土器群
(所蔵:一宮市博物館)

一宮市芸術文化協会

ICHINOMIYA Arts and Culture Association

「一宮市」には、一宮市博物館・一宮市三岸節子記念美術館・一宮市尾西歴史民俗資料館など先人の残した文化を紹介する施設があります。私たちの「身近な文化」を学んでみませんか？

いちのみやの弥生時代

萩原遺跡群を巡る

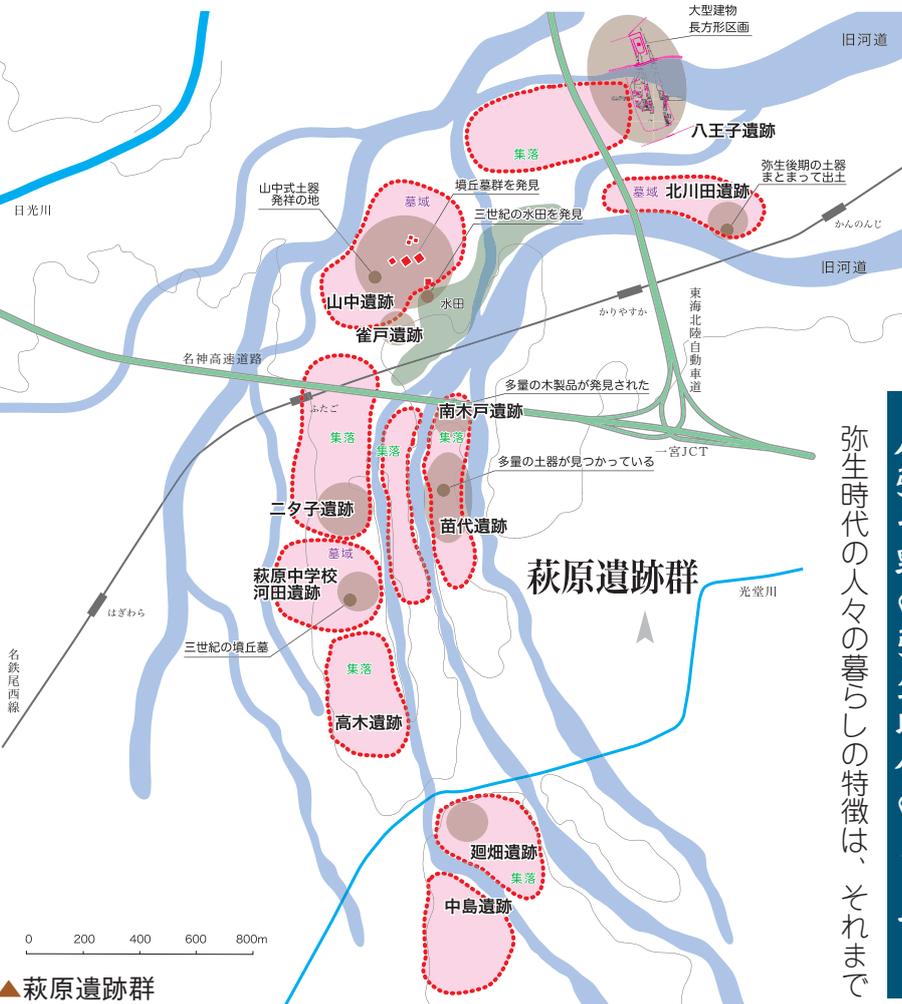
プロローグ

今から十六年前の一九九八年。東海北陸自動車道建設に伴う事前の発掘調査によって、現在の一宮西インターチェンジ付近で銅鐸が発見されました。愛知県内で発掘調査により出土した銅鐸は、朝日遺跡（清須市所在）について二例目となるもので、「外縁付鈕1式流水文銅鐸」という県内では最古となる銅鐸が、倒立した状態で埋納されていました。

さらに遡ること約四十年前の一九五九年。県立尾張病院建設に伴う掘削で、敷地内の西方にあたる萩原町富田方字山中から数多くの完形の土器が出土しました。後にパレススタイル様式（赤い土器・ギリシャのクレタ島から出土した「宮廷式土器」にも匹敵する美しさのためこう呼ばれる）の典型的な例とされるとともに、「山中式」という土器型式名のルーツとなった土器群です。

この山中遺跡の周辺には、南方に位置する一

宮西高等学校周辺に二夕子遺跡、萩原中学校周辺に河田遺跡があり、さらに南へいけば萩原町高木や中島地域でも、何ヶ所か遺跡が見つかっています。また、やや東方の大和町苅安賀地内には、前述の銅鐸が出土した八王子遺跡や北川田遺跡がありま



尾張平野の弥生時代のようす

弥生時代の人々の暮らしの特徴は、それまで降、尾張平野のこの地域の米作りを中心とした生産力が、非常に高いということを示しているものと考えられます。この萩原町から大和町地域にかけての、弥生時代から古墳時代の遺跡分布が密なことから、これらの遺跡群を「萩原遺跡群」と呼んでいます。この時期に、なぜこの地域が人々の暮らしの中心地となったのか、考えてみたいと思います。

の縄文時代の狩猟・採集による食材確保から、稲作・農耕を中心とした食料の確保に変化したところ。また、石器にかわる道具として、鉄や青銅等の金属で作った道具の使用が始まる時期でもあります。

縄文時代の遺物が出土した遺跡の数は、一宮市内では十ヶ所ほどしか知られていませんが、弥生時代から古墳時代の遺物が出土した遺跡の数は、爆発的に増加します。このことは何を物語るのでしょうか。

まず地形から考えてみましょう。一宮市は、北部から東部にかけての地域が、木曽川が形成した犬山扇状地の末端部分であり、南部から西部にかけての地域は、木曽川の派川が形成した自然堤防帯と後背湿地部分からなっており、周



▲八王子遺跡井泉の祭祀場検出状況

りより高い自然堤防帯で人々が暮らし、低い部分である後背湿地を、水田として利用するという生活が見えてきます。そして、木曽川上流部で雨が多

く降ると、派川を流れ下った水は後背湿地部を流れます。その時、上流部から肥沃な土砂をもたらすこととなります。稲作・農耕を生業とする弥生人にとって、こうした水の流れは、人の命を奪う脅威であると同時に、耕作地の新陳代謝を促す恵みでもあったと思われま。尾張平野は農耕を主とする弥生時代の人々にとって、最適な土地であったと言えます。

次に、市内に残る地名、小字名を考えたとき、たとえば「浅井」「玉ノ井」など、井戸に関わる地名や「清水」という湧水に関わる地名が残っています。これは扇状地の末端という地形には、湧水地点がたくさんあったということを示すものと思われま。

八王子遺跡の大きな調査成果は、前述の銅鐸発見がありますが、もう一つ、古墳時代の水にかかわる祭祀の場が検出されたことで、湧水場所を堰ぎ止め、水を溜めて各種の祭祀が行われていたと考えられています。この井泉の周辺では、多量の小型の精製土器群や木製品（槽・剣形・鳥形）が見つかっています。さらに近接した場所には、水路で方形に区画された区域の中に、大型建物が建てられていた痕跡があり、この場所に地域の人々が集まり、水に関わる祭祀が行われていた可能性があります。

豊富な水の存在が、豊かな生産力の支えでもあり、さらに水の湧く神聖な場所の存在が、尾張平野の中心地域としての役割を、この地域が果たしていたことを示していると思われま。

エピソード

市内玉野の善福寺境内に、弘前市出身の詩人「福士幸次郎」の碑があります。

現地には「福士幸次郎先生原日本考発想之地」の標柱碑と、「尾張は日本のメン



▲福士幸次郎石碑(玉野・善福寺境内)

ポタミヤであり、木曽長良の両川はチグリ、ユウフラテスにあたる」と書かれた石碑が建っています。萩原町高松出身の詩人「佐藤一英」が、友人である福士を顕彰するために有志の協力を得て建てたものです。

福士幸次郎は戦後の一時期、善福寺に逗留し、尾張平野の豊富な生産力を見て前言を残しました。当時はあまり注目されなかった一文ですが、示唆に富んだものであると言つことができる気がします。

近年では、尾張平野を邪馬台国の時代に卑弥呼と対立した狗奴国に見立てる学説もあります。みなさんはどう考えられますか。

(一宮市博物館学芸員 土本典生)

参考・引用文献

『弥生水都2000年』一宮市博物館・2004

加入団体の紹介

日中古墨書道友好協会尾張支部 (にっちゅうこぼくしよどうゆうこうきょうかいおわりしぶ) (書部門)

私達は毎週水曜日の午後1時から、一宮スポーツ文化センターで活動しています。

講師の李^り銀山^{ぎんざん}先生は、書を通して日中友好をと、来日されました。先生は朱墨を使わず、文字通り「手を取って」教えてくださいます。

私達の教室では、練習する内容や書体は基本的に生徒が自由に選びます。メンバーの多くは高齢の初心者ですが、先生の書に対する情熱と、書の故郷から吹いてくる風が、持続力や向上心をもたらしてくれます。

会の活動としては、陶芸をされている「楽陶会」と合同で「楽陶会&日中古墨書道展」を隔年で開催してきました。昨年(2013)の10月に開催した第4回の合同展では、中国の清時代を代表する書家のひとりである「張^{ちやう}裕^{ゆう}釗^{しやう}」の書法特集として、先生からその書法を学び、出来上がった作品を展示することができました。他にも、中国書道に直に触れて

もらうため、先生による様々な書体の揮毫や書道体験教室を開催したり、毎年中国を訪れ、現地の方々と展覧会や名所をめぐるたりしています。

日中古墨書道友好協会全体として、毎年9月に名古屋で「日中交流書道展」が開催され、今年は11回目を迎えます。

興味を持たれた方はいつでも見学においでください。一緒に楽しく学びましょう。



◀書道展Ⅳの準備風景

【問合せ先】村瀬 榮子 ☎61-2292

加入団体の紹介

浅井土筆句会 (あざいつくしくかい)

(俳句部門)

私達は「浅井句会」として活動していましたが、講師の木村不二王^{ふじ}氏亡きあと、平成8年に「俳句の会」を立ち上げ、今は「浅井土筆句会」として一宮俳句協会の坂井^{さかい}齊^{せい}先生の指導のもと、楽しく俳句を学んでいます。

例会は毎月第3木曜日の午後1時より、浅井公民館で開催し、各自6句を持ち寄り、それを互選し、先生に講評してもらっています。選句に集中している静かな時間は、普段の生活では味わうことができない俳句の醍醐味の一つです。

他にも、市民文芸誌の「いちのみや文芸」に投稿したり、吟行会に参加し、11月に複数の団体が集まり開催される「俳句大会」にも参加しています。

時には、より深く俳句を学ぶため、他団体の例会にも参加して、いつもと違う雰囲気の中で学び、自分の俳句を見つめなおす大切な時間を持ってお

ります。

俳句は、四季の移り変わりを見つめ、その感動を五・七・五の十七音に季語をつけたもつとも短くて奥行きのある文芸です。俳句と聞くとその響きだけで小難しい気がしてしまうかもしれませんが、難しくはありません。紙と書く物さえあれば誰でもできます。ぜひ私たちと一緒に、わきあいあいと楽しい時間を過ごしてみませんか。



▶例会風景

【問合せ先】土屋 謹子 ☎51-3824

「安美&コンブリオ」は、色々な楽器を演奏し、楽しく活動している団体です。

名前に入っている「コンブリオ」という言葉の意味をよく聞かれますが、イタリアの言葉で“元気よく・楽しく・いきいきと”という意味になります。音楽を通じて、皆さんにその思いが伝わるようにと練習に励んでいます。

普段演奏している楽器には、ピアノや電子オルガンなどの鍵盤楽器から、トランペットなどの金管楽器、その他にも木管楽器、弦楽器、打楽器と多岐にわたっています。また、一つの楽器を演奏するだけでなく、色々な楽器を練習することによって、演奏の深みを持つことができるよう心掛けています。

活動としては、びさいまつりや尾西芸能祭に毎年参加しています。また、チャリティーコンサートに積極的に参加したり、福祉施設なども訪問し

て演奏しています。

クラシックからジャズ、童謡とさまざまなジャンルの音楽を楽譜のままではなく、アレンジを加えながら自分達のオリジナルで演奏しています。時にはミニミュージカルを企画したり、ダンスとコラボレーションしてみたりと、音楽の力で、観客の皆さんとコミュニケーションを深めることができるように、会員一同頑張っています。



◀クリスマスコンサート

【問合せ先】古川 安美 ☎62-4304

「タンポポの会」は、平成22年に尾西生涯学習センターで開催された水彩画入門講座の受講生が、講座終了後も続けていきたいということで、平成23年1月に発足しました。講座でお世話になった小川護先生に、引き続き指導をお願いしています。

毎年秋には、尾西歴史民俗資料館で「タンポポ水彩画展」を開催しています。皆、年一回のこの作品展に向けて、真剣に絵筆をふるっています。

また、三岸節子記念美術館にて開催される「MORE展」にも参加しています。この展覧会は、小川先生からご指導いただいているグループの合同展で、多くのメンバーと展覧会を作り上げていくことによって、普段では味わうことができない達成感を得ることができます。

他にも地域への恩返しと交流のため、近隣の施設に作品を展示させていただいたり、美術館見学

や近くの河原などへスケッチにも出かけたりしています。

今は尾西生涯学習センターで、毎月第2・第4火曜日の午前10時から活動しています。男性5名、女性6名の気の良い仲間達で、わきあいあいとした雰囲気の中、楽しく活動しています。皆、絵を描くことが大好きです。一緒に描いてみませんか。ぜひお越しください。



◀懇親会にて

【問合せ先】山田 友子 ☎68-2689



「My home must always be happy!」林 節子

《市および市内公共施設の催し》

一宮市博物館

☎(46)3215

※3月11日(火)から9月末日まで常設展示リニューアルのため臨時休館いたします。

三岸節子記念美術館

☎(63)2892

常設展「三岸節子 花を巡る旅」
日時 4月15日(火)～7月13日(日)

午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで、月曜休館、ただし5月5日

(祝)開館、4月30日(水)・5月7日(水)は休館。

内容 ①その時々のお思いをこめて描かれた花の作品とともに、

長きにわたる画家としての旅路をたどります。

観覧料 ①一般 320円

②高大生 210円

③小中生 110円

※市内小中生・65歳以上無料

尾西歴史民俗資料館

☎(62)9711

特別展「大垣藩と起宿」

日時 4月26日(土)～6月1日(日)

午前9時～午後5時

(入館は午後4時30分まで、

月曜休館、ただし5月5日

(祝)開館、4月30日(水)・5月

7日(水)は休館。

内容 ①大垣藩の藩主は幕府の重職に就くことが少なく、毎年の参勤交代で美濃路を通りました。参勤交代と宿場について紹介します。

観覧料 ①無料

講座「美濃路探訪 春～美濃編」

日時 5月18日(日)

午前9時～午後4時30分

内容 ①江戸時代の主要な街道であった美濃路について、歴史と現在の様子を講義と現地学習で学びます。

定員 ①35名

※要参加費・要申込み。詳しくは4月号広報を参照。

一宮市民会館

☎(71)2021

朝イチクラシックサロン

オンステージ Vol.1 前田祐里ピアノ

「シューベルトの至高」

日時 4月5日(土) 午前11時～

(開場は30分前)

入場料 ①、000円

(チケットレス)

※全席自由・未就学児入場不可

「スーパー・チェロ・

アンサンブル・トウキョウ」

日時 4月13日(日) 午後2時～

(開場は30分前)

入場料 ①S席 3,500円

②A席 3,000円

③学生 1,000円

※全席指定・未就学児入場不可

一宮市尾西市民会館

☎(62)8222

プレミアム・アフタヌーン「モーツァルトの恋」シネマ&コンサート

日時 4月26日(土) 午後1時～

(開場は30分前)

入場料 ①、300円

※全席自由・未就学児入場不可

市生涯学習課

☎(84)0013

※5月7日(水)からは

☎(85)7075

「市民美術教室」

〔写真〕

日時 5月15日～6月5日の毎週

木曜日、および5月18・25
日の日曜日

【日本画】

日時 6月4日～7月30日の毎週
水曜日(7月9日は除く)

【油絵】

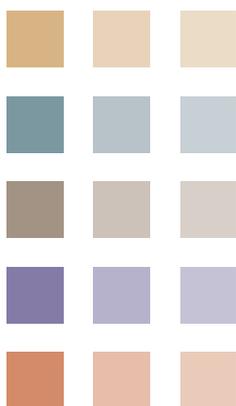
日時 6月5日～7月31日の毎週
木曜日(7月10日は除く)

【書】

日時 6月5日～7月31日の毎週
木曜日(7月10日は除く)

会場 一宮スポーツ文化センター
他

対象 市内在住・在勤・在学の方
※全コースとも、要受講料。また
所定の締切日までに事前の申込
が必要。詳しくは【写真】は4
月号【その他のコース】は5月
号の広報を参照。



『狂俳月例会』

【問合せ先 一宮狂俳壇連盟】

☎(51)2286

日時 3月8日(土)・4月12日(土)
5月10日(土)・6月14日(土)
午後1時～

会場 葉栗公民館

内容 各自10句持参、互選により
優秀作を記録に残します。
(初心者歓迎)

参加料 無料

『市民短歌教室』

【問合せ先 真清短歌会】

☎(72)7691

日時 3月9日(日)・4月13日(日)
6月8日(日) 午後1時～

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 真清短歌会委員により実作
指導します。(初心者歓迎)

参加料 無料

申込み 当日直接会場

『春の市民短歌吟行会』

日時 5月16日(金) 午前9時～

行先 無量寿寺(知立市)、安城産
業文化公園デンパーク(安
城市)他

対象 どなたでも

定員 40名(定員を超えた場合は
抽選)

参加料 2,000円(昼食付き)

申込み 4月21日(月)までに事務局
☎(84)0013へ連絡。

『市民俳句教室』

【問合せ先 一宮市民俳句教室】

☎(73)5504

日時 3月23日(日)・4月27日(日)
5月25日(日)・6月22日(日)
午後1時～

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 当季雑詠3句を一宮市民俳
句教室委員が指導します。
(初心者歓迎)

参加料 無料

申込み 当日直接会場

『春の市民俳句吟行会』

日時 5月20日(火) 午前9時～

行先 馬籠宿(中津川市)

対象 どなたでも

定員 40名(定員を超えた場合は
抽選)

参加料 2,000円(昼食付き)

申込み 4月30日(水)までに事務局
☎(84)0013へ連絡。

『市民川柳教室』

【問合せ先 一宮川柳社】

☎(45)6951

日時 3月23日(日)・4月27日(日)
5月25日(日)・6月22日(日)
午後1時～

会場 一宮スポーツ文化センター

内容 自由吟および課題吟を一宮
川柳社委員が指導します。
(初心者歓迎)

参加料 無料

申込み 当日直接会場

『民謡まつり』

【問合せ先 民謡長澤会】

☎(62)6768

日時 3月30日(日)午前10時30分～
(開場は30分前)

会場 尾西グリーンプラザ

内容▼民謡の発表を行います。また、大正琴、マジック、太鼓等の賛助出演もあります。
入場料▼無料

『尾彩第7回水彩画展』

【問合せ先 尾彩】

☎(69)0430

日時▼4月8日(火)～13日(日)

午前9時～午後5時

(8日は正午から。13日は午後3時30分まで)

会場▼尾西歴史民俗資料館

内容▼会員の水彩画の力作を展示します。

入場料▼無料

『石刀まつり』

【問合せ先 一宮民俗芸能連盟】

☎(73)5221

日程▼4月20日(日)

会場▼石刀神社(今伊勢町馬寄)

内容▼山車からくり・献馬

『春季謡曲大会』

【問合せ先 一宮謡曲同好会】

☎(62)0966

日時▼4月27日(日)午前9時30分～

会場▼産業体育館

内容▼素謡、連吟、仕舞等の発表

入場料▼無料

『サロンコンサート』

『風薫五月によせて』

【問合せ先 一宮音楽家協会】

☎(87)2827

日時▼5月11日(日) 午前11時～

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼一宮音楽家協会会員による演奏会。曲目は水色のワルツ(高木東六)・トッカータ(バッハ)など。

入場料▼無料

『女声合唱団コール・フリーデ 第7回演奏会』

【問合せ先 一宮合唱協会 女声合唱団コール・フリーデ】

☎(62)1971

日時▼5月18日(日) 午後2時～

(開場は30分前)

会場▼稲沢市民会館 中ホール

入場料▼一般1,000円
中学生以下 500円

※全席自由・大森楽器、坂野楽器、星川楽器にてチケットを販売

『2014 一宮総合美術展』

【問合せ先 生涯学習課】

☎(84)0013

※5月7日(水)からは

☎(85)7075

日時▼6月5日(木)～8日(日)

午前10時～午後5時(8日は午後4時30分まで)

会場▼一宮スポーツ文化センター

内容▼加入団体から選ばれた作家の作品の日本画・洋画・彫刻立体・工芸・デザイン・書・写真の作品を展示します。

入場料▼無料

『加入団体の催し』欄に情報を掲載しませんか？

このコーナーでは一宮市芸術文化協会加入団体の活動情報を募集します。掲載を希望される団体は、発行月3・6・9・12月の前々月15日までに、下記の必要事項を任意の様式にて記入の上、事務局まで提出してください。

必要事項 ①行事名 ②団体名 ③問合せ先電話番号 ④日時 ⑤会場 ⑥対象 ⑦参加料 ⑧申込方法 ⑨その他必要事項

提出先 〒493-8511 一宮市芸術文化協会事務局(住所不要) または FAX 0586-86-1809

【事務局移転のお知らせ】

平成26年5月7日(水)より、新庁舎稼働に伴い、一宮市芸術文化協会事務局が移転し、連絡先等が下記のとおり変更となりますので、ご注意ください。

※移転後連絡先(5月7日(水)～)

【住所】〒491-8501 一宮市本町2丁目5番6号

(一宮市役所本庁舎4階 市教育委員会生涯学習課内)

【電話】0586(85)7075

この「いちのみやの芸術文化」は、今年度の編集委員八名(浅井英仁・木全 修・小島瑞月・後藤富士雄・坂井 斉・寺西洋二・増田和臣・柳原たづ子 ※順不同・敬称略)により、編集されています。

【題 字】武 山 翠 屋
【編集・発行】一宮市芸術文化協会

【連絡先】一宮市芸術文化協会事務局(市教育委員会生涯学習課内)
〒493-8511 愛知県一宮市木曾川町内割田一の通り27番地
TEL 0586-84-0013 / FAX 0586-86-1809